

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース/立岡 裕士

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

2012年度の科研費については『日本総国風土記』について基礎的な文献的検討を行うことをテーマとして申請済みである。

本研究は3年度計画のもので、以下を到達目標とする。

A 残存する諸本を校合して本文の差異・変化を明らかにし、最も古い写本を明らかにする(2012年度の作業)

B 中世および近世初頭の、その他の地誌的資料との比較することで、類縁関係を考える(以下2013～2014年度の作業)

C 校定した『総国風土記』本文をweb上で公開する

2. 点検・評価

「近世実測図を活用した古地図GIS解析法の構築」(基盤研究(B)2009～2012年度)は予定通り作業を終え、その成果が報告書にまとめられたので寄稿した(この報告書は2013年度に出版するべく計画中である)。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

過去に、私の行った徳島県教員に対する10年次講習を受講した結果、大学院での修学を決意したという院生がいたことに鑑み、10年次講習および県内外の教員を対象とする講習にあたるのみならず、地図指導の教室などを積極的に開催することで本学で修学する魅力を訴えたいと考えている。

2. 点検・評価

中間報告の通り現職教員講習や地図教室を行った。これを通して、鳴教で修学する魅力を伝えられるように努めた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

新入学生の担任を務めることから、初等中等教育実践基礎演習その他の機会を通じて

①古典を読むこと

②論理的な文章を書くこと

を中心とした指導を強く行う予定である。

2. 点検・評価

初等中等教育実践基礎演習・実地教育I、その他の機会(授業・修卒論発表会など)を利用して新入学生をはじめとする学部生・院生に対して指導を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

自己が帰属する空間に関する地誌的研究について、日本の近世・近代を外国の事例と比較し、論文として発表する。

2. 点検・評価

・「近世節用集における「地理」の掲出状況」を鳴門教育大学大学研究紀要28に投稿した。

・「近世地理学の内在的定義の試み」を人文地理学会2012年度大会(11月18日)で発表した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

課せられた仕事を行う。

2. 点検・評価

課せられた仕事を行った(大学院入試委員・社会系コース人文地理学担当教員選考委員・社会系コース長)。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・徳島地理学会を通して徳島県下の地理学・地理教育の振興を図る。
- ・鳴門西小学校で地図教室を開く。
- ・公開講座「遍路道の遺産をたどる」を担当する。
- ・「県・大学等連携による教職員研修」を担当する。

2. 点検・評価

- ・徳島地理学会を通して徳島県下の地理学・地理教育の振興を図った(特に、年次大会(7月21日)および第20回児童・生徒の地図作品展(12月1~2日)の開催)。
- ・鳴門市立図書館(7月28日)および鳴門西小学校(8月1日)で地図教室を開いた。
- ・公開講座「遍路道の遺産をたどる」を担当した(10月21日)。
- ・「県・大学等連携による教職員研修」を担当した(7月26日)。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

(特記すべきことは何もありません。したがって「自己点検・評価水準」も空欄にすべきですがそのような選択が可能でないため「S」のまま放置します)